

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 30 日現在

機関番号：64401

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2016

課題番号：25770167

研究課題名(和文)言語多様性の記述を通して見る中国雲南省チベット語の方言形成の研究

研究課題名(英文) Study on the Dialectal Development of Tibetan Spoken in Yunnan, China, through a Description of the Linguistic Diversity

研究代表者

鈴木 博之 (Suzuki, Hiroyuki)

国立民族学博物館・先端人類科学研究部・外来研究員

研究者番号：10593006

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、4年間を通じてフィールドワークを行い、中国雲南省で話されるカムチベット語のおよそ110地点に及ぶ変種ならびにカムチベット語分布域に重なる地域に分布するナシ語、リス語、マリマサ語について、語彙形式および基本文型を中心に記述した。次に、これらのデータを電子化し、カムチベット語については、ArcGISで分析可能な形のデータベースを作成した。これをもとに、地理言語学的な分析を行い、各種方言群の形成について考察を進めた。以上の研究に基づく成果として、論文を計60件発表し、単著を1件出版した。また、国内・国際会議において、口頭発表を25件、ポスター発表を1件行い、招待講演を7件行った。

研究成果の概要(英文)：This research project conducted multiple times of fieldwork in Yunnan Province, China, throughout four years, and recorded lexical items and basic sentence examples of around 110 dialects of Khams Tibetan as well as Naxi, Lisu, and Malimasa, languages spoken in the Tibetan area of Yunnan. Then, the data were arranged as an electronic format, and the data of Khams Tibetan was made a database for ArcGIS online to produce linguistic maps. Based on the database, the project conducted geolinguistic analyses and investigated the history of the formation of each dialect group of Khams Tibetan in Yunnan. The research results are: 60 articles and book chapters and one monograph as well as 26 presentations in various conferences and workshops and 7 invited talks.

研究分野：言語学

キーワード：チベット語 方言学 地理言語学 フィールドワーク 言語接触 中華人民共和国

1. 研究開始当初の背景

中国雲南省北西部は数百年にわたって多くの少数民族が共生してきた地域であり、彼らの話す言語も多様で、かつ村落ごとに異なる方言が話されている。本研究の対象とする地域でチベット語をめぐる問題を研究するに当たっては、チベット語の諸方言のみならず、同地域でチベット文化圏と広範囲に接するナシ（納西）文化圏の支配言語・ナシ語や、山間部に分散して住むリス族の言語・リス語および土地の漢語（中国語）などの諸言語も記述研究の対象とし、主に音声・語彙のデータを記録する必要がある。同地域のチベット語は3つの方言群に分かれていることが知られているが、3種の方言群が相互にどのような関係にあるのか、また各群の下位方言群がいかに分岐したのかについては未解明のままであった。

2. 研究の目的

チベット文化圏の南東端に位置し、他の民族文化圏と接する中国雲南省北西部で話されるチベット語諸方言は、その分布地域の範囲に照らして非常に大きな多様性を持っている。本研究では、同地のチベット語諸方言が多様で独特の言語特徴をいかにして持つようになったのかという問題を提起し、同地の多言語状況に配慮しながら、記述言語学の方法論を用いて数十地点にわたる語彙・文法事項に関する方言調査によって得られたデータを、比較言語学および地理言語学の方法論で分析することを通じてこの問題を解明することを目的とした。

3. 研究の方法

以上の目的を達成するためには、下位方言分類を含む各方言群の分布を地理的分布とともに可視化し、チベット語と非チベット語の分布の関係を明確にしたうえで、各村落における言語状況に応じてナシ語やリス語の諸方言の具体的な言語データを提示したうえで、言語接触によるチベット語の言語変化が起こりえたかどうかを議論する必要がある。そのためには、記述言語学的研究をチベット語のみならず非チベット語についても行い、方言間の比較言語学的研究とともに地理言語学の方法論を運用してチベット語諸方言のデータの地図化およびその地図についての考察を行った。

4. 研究成果

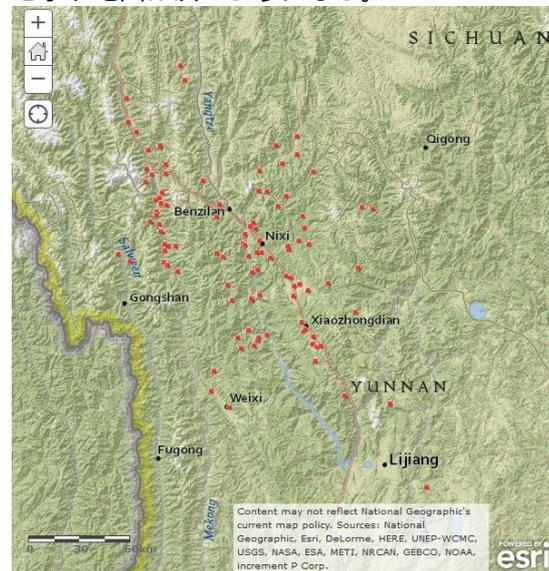
本研究の成果は、主に(1)収集した音声・語彙・文法資料、(2)電子化したデータベース、(3)データに基づいた考察、(4)成果の発表の4点に分かれる。また、(5)国際共同研究も成果に含まれる。

(1)については、中国雲南省で行った計10回の臨地調査を通して、新しく約50地点のチベット語方言を記述し、これまでに記録し

たことのある方言の追加調査も行い、計約110種のチベット語方言を記述した。加えて、チベット文化圏で用いられる他の少数言語のナシ語、リス語、マリマサ語も記述した。記述研究の内容としては、主に2000語程度の語彙集に含まれる語彙形式、および基礎的な文法構造を知るための200文を記録した。

(2)については、(1)で記録したデータを検索可能な電子的資料に変換し、データベース化した。また、語彙データの一部を言語地図化するため、オンライン地図作成ソフト ArcGIS online で扱えるように適切な形式に整理・編集した。

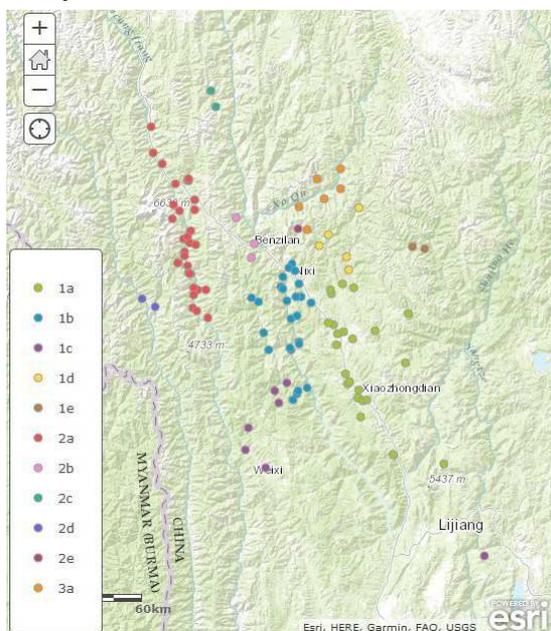
(3)については、まず、チベット語調査地点を示す地図は次のようになる。



以上の地点に基づき、(2)で作成した言語地図用のデータを用いて、ArcGIS online を用いて試行錯誤を繰り返しながら言語地図を計100枚作成した。また、作成した言語地図を解釈する方法を検討し、語彙形式の多様性に富む語、少数の特定の語彙形式が用いられる語、音韻対応のみが問題になる語、と種別を分けて解釈を行うこととし、チベット語各種方言の歴史的変遷を考察した。

この作業により、雲南省のカムチベット語の系統関係がより明確になり、3種の方言群（香格里拉、徳欽、郷城）が地理言語学で考察可能となった約100年の歴史において、当初よりそれぞれ独立した方言群を形成していることが明らかとなった。また、香格里拉方言群の下位分類について、さらに踏み込んだ分析を行い、歴史史料・口承による歴史を参考にしつつ言語現象について考察を進めることにより、香格里拉方言群全体が50年以上も以前からナシ語の影響を受けた方言群であり、その影響の大きさによって方言の下位区分が行えることを示した。以上の考察に基づいて、3種計11種の方言群に分類した。これを地図上に示すと、次のように

なる。



加えて、言語地図を作成することによって方言群の接触地域の状況を可視化し、それに基づいて考察を進め、香格里拉方言群と郷城方言群の方言接触と接触地域における各種方言の発展について、具体的な接触の過程を明らかにした。

(4)については、以上の結果に基づいて、研究の直接的成果および副次的成果を含む60件の論文を執筆し、25件の口頭発表、1件のポスター発表を行い、単著を1件出版した。

(5)については、研究期間全体を通して、中国・ノルウェー・オーストラリアの研究機関・組織と共同研究を実施した。共同研究として、本研究課題そのものについての研究や課題と密接に関係する副次的な研究を実施した。その中で、招待講演を含む研究交流も行い、また成果発表の一環として各国の研究者との共同執筆論文の発表を行った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計60件)

1 Gerald Roche, Hiroyuki Suzuki. Tibet's minority languages: Diversity and endangerment. 査読有. *Modern Asian Studies* 51(5), 2017, 印刷中

2 Hiroyuki Suzuki, Sonam Wangmo. Language evolution and vitality of Lhagang Tibetan, a Tibetic language as a minority in Minyang Rabgang. 査読有. *International Journal of the Sociology of Language* 245, 2017, 63-90
DOI: 10.1515/ijsl-2017-003

3 鈴木 博之、1899年出版《藏拉法詞典》記載的 snang 詞用法及其来歴、査読有、南開語言學刊、2、2017、印刷中

4 鈴木 博之、音変化の ABA 分布が語りうる言語史：チベット文化圏南東端のカムチベット語を例に、査読有、言語記述論集、9、2017、43-64

URI: <http://id.nii.ac.jp/1422/00000911/>

5 Hiroyuki Suzuki. The evidential system in Zhollam Tibetan. 査読有. *Evidential Systems in Tibetan Languages*, 2017, 423-444.

DOI: 10.1515/9783110473742-013

6 Hiroyuki Suzuki. The vitality of Khams Tibetan varieties in Weixi County. 査読有. *Asian Highland Perspectives* 44, 2017, 256-284.

URI:

<https://tibetanplateau.wikischolars.colombia.edu/VOLUME+44>

7 鈴木 博之、麗江永勝県大安藏語的來歴初探：通過與納西族的接觸如何演變、査読有、藏學學刊、14、2017、250-263

8 Hiroyuki Suzuki. In defense of prepalatal non-fricative sounds and symbols: towards the Tibetan dialectology. 査読無. *Researches in Asian Languages* 10, 2016, 99-125.

9 Hiroyuki Suzuki, Sonam Wangmo. Cultural contexts of the expansion of a Tibetan word 'bras 'rice' in the easternmost Tibetosphere. 査読無. *Papers from the Third International Conference on Asian Geolinguistics*. 2016. 72-79.

URL:

https://publication.aa-ken.jp/papers_31_C_Asian_geolinguistics_2016.pdf

10 鈴木 博之、試論東方藏區藏語土話的語法地圖：以判斷動詞與存在動詞為例、査読有、從北方到南方：第三屆中國地理語言學國際學術研討會論文集、2016、111-122

11 鈴木 博之、/ɣ/が語る音変化史：カムチベット語香格里拉方言群における硬口蓋系列音素についての覚え書き、査読有、言語記述論集、8、2016、91-103

URI: <http://id.nii.ac.jp/1422/00000898/>

12 鈴木 博之・四郎翁姆、カムチベット語塔公[Lhagang]方言の文法スケッチ、査読有、言語記述論集、8、2016、21-90

URI: <http://id.nii.ac.jp/1422/00000897/>

13 鈴木 博之、藏語方言學研究與語言地圖：如何看待“康方言”、查読有、民族學刊、2、2016、1-13+92-94

URI:

http://mzxk.ijournals.cn/mzxk/ch/reader/create_pdf.aspx?file_no=20160201&year_id=2016&quarter_id=2&falg=1

14 Hiroyuki Suzuki, Sonam Wangmo. Lhagang Choyu: A first look at its sociolinguistic status. 查読無. *Studies in Asian Geolinguistics* 2. 2016. 60-69.

URI:

https://publication.aa-ken.jp/sag2_rice_2016.pdf

15 Hiroyuki Suzuki, Sonam Wangmo. Lhagang Tibetan of Minyag Rabgang Khams: Vocabulary of two sociolinguistic varieties. 查読有. *Asian and African Languages and Linguistics (AALL)* 10. 2015. 245-286.

URI: <http://hdl.handle.net/10108/85072>

16 鈴木 博之、カム地域のアムドチベット語・道孚県色卡[gSerkha]方言の音声記述、查読有、京都大学言語学研究、34、2015、89-107

URI: <http://hdl.handle.net/2433/218951>

17 Hiroyuki Suzuki, Sonam Wangmo. Challenge to discover endangered Tibetic varieties in the easternmost Tibetosphere: a case study on Dartsendo Tibetan. 查読有. *Linguistics of the Tibeto-Burman Area* 38.2, 2015, 256-270
DOI: 10.1075/ltba.38.2.07suz

18 Hiroyuki Suzuki. Esquisse phonétique du tibétain de dGonpa : un dialecte parlé à mBrugchu. 查読有. *Revue d'études tibétaines* 33. 2015. 231-249.

URI:

http://himalaya.socanth.cam.ac.uk/collections/journals/ret/pdf/ret_33_07.pdf

19 Hiroyuki Suzuki. New perspective on the suprasegmentals in mBrugchu Tibetan: an introduction to the tonogenesis triggered by breathy voice. 查読有. *Bulletin of Chinese Linguistics* 8.1, 2015, 117-139
DOI: 10.1163/2405478X-00801007

20 鈴木 博之、建塘藏語土話研究的幾個意義、查読有、雲南藏學研究、2、2015、184-197

21 鈴木 博之、所謂藏語康方言中的“聲調”語音特徵、查読有、南開語言學刊、1、2015、74-78

22 鈴木 博之、瑪麗瑪薩語川處話語音分析、查読有、納西學研究、1、2015、245-256

23 Hiroyuki Suzuki, Sonam Wangmo. Quelques remarques linguistiques sur le tibétain de Lhagang, «l'endroit préféré par le Bodhisattva». 查読有. *Revue d'études tibétaines* 32, 2015, 153-175

URI:

http://himalaya.socanth.cam.ac.uk/collections/journals/ret/pdf/ret_32_05.pdf

24 鈴木 博之、雲南藏語土話中的特殊數詞形式：其地理分布與歷史來源、查読有、南開語言學刊、2、2014、68-76

25 鈴木 博之、h~ と h̃~ : 鼻腔共鳴を伴う声門摩擦音に関する覚え書き、查読有、地球研言語記述論集、7、2014、141-149

URI: <http://id.nii.ac.jp/1422/00000875/>

26 鈴木 博之、カムチベット語丙中洛[Bodgrong]方言の音声分析、查読有、アジア・アフリカの言語と言語学、9、2014、153-193

URI: <http://hdl.handle.net/10108/80349>

27 Hiroyuki Suzuki. Brief introduction to the endangerment of Tibetic languages: special reference to the the language situation in Eastern Tibetan cultural area. 查読有. *The Journal of Linguistic Studies* 19.3, 2014, 281-301

28 鈴木 博之、尼汝藏語的小舌輔音與其藏文對應規律、查読有、東方語言學、14、2014、1-12

29 鈴木 博之、カムチベット語香格里拉県小中甸郷吹亞頂[Choswateng]方言の音声分析と語彙：rGyalthang 下位方言群における方言差異に関する考察を添えて、查読有、国立民族学博物館研究報告、39.1、2014、45-122

URI: <http://hdl.handle.net/10502/5401>

30 鈴木 博之、カムチベット語小中甸・吹亞頂[Choswateng]方言の文法スケッチ、查読有、地球研言語記述論集、6、2014、1-40

URI: <http://id.nii.ac.jp/1422/00000860/>

〔学会発表〕(計33件)

1 Hiroyuki Suzuki, Sonam Wangmo. Migration history of Amdo-speaking pastoralists in Lhagang, Khams Minyag, based on narratives and linguistic evidence. 29-31 January 2017. 2nd International Workshop of the Amdo Research Network. Praha (Czech)

2 Hiroyuki Suzuki. Newly-recognised languages in Eastern Tibet. Invited talk

at University of Melbourne. 30 November 2016. Melbourne (Australia)

3 鈴木 博之、川西藏區藏語語言的分布與地理語言學的幾個論點、2016年10月25日、西南交通大学招待講演、成都(中国)

4 Hiroyuki Suzuki. Typological description of existential verbs and expressions in the Tibetic languages spoken in the eastern Tibetosphere. 8-10 September 2016. 4th Workshop on Sino-Tibetan Languages of Southwest China. Seattle (USA)

5 Hiroyuki Suzuki. Tibetans' languages of Thamkhas Hamlet, Lhagang Town, Dartsendo. 2016 北京藏學研討會、2016年8月1-4日、北京(中国)

6 Hiroyuki Suzuki. When the 'brog-skad, rong-skad, and logs-skad meet: Describing Lhagang Tibetan. 14th Seminar of the International Association for Tibetan Studies. 20-25 June 2016. Bergen (Norway)

7 鈴木 博之、麗江永勝県大安藏語の來歴初探：通過納西族的接觸如何演變、西南民族大学招待講演、2015年12月11日、成都(中国)

8 鈴木 博之、藏語方言學研究與語言地圖：如何看待“康方言”、西南民族大学招待講演、2015年12月11日、成都(中国)

9 鈴木 博之、藏族與納西族的語言接觸。以雲南藏語土話中的三個特殊語音演變為例、西南民族大学招待講演、2014年10月28日、成都(中国)

10 Hiroyuki Suzuki. Sociolinguistic position of Melung Tibetan dialects (Weixi Yunnan). 3rd International Workshop on the Sociolinguistics of Language Endangerment. 21-22 October 2014. Kunming (China)

11 Hiroyuki Suzuki. Historical development of Bodgrong [Bingzhongluo] Tibetan (Gongshan, Yunnan). 47th International Conference of Sino-Tibetan Languages and Linguistics. 16-19 October 2014. Kunming (China)

12 Abe Powell, Hiroyuki Suzuki. Phonetic Distance at the Northeastern Tip of the Plateau: A Study of the Synchronic Relationships of Tibetan Dialects in the Gansu-Sichuan Border Area. 47th International Conference of Sino-Tibetan Languages and Linguistics. 16-19 October

2014. Kunming (China)

13 Hiroyuki Suzuki. Essay on the origin of uvular initials in Myigzur Tibetan (Shangri-La, Yunnan). 20th Himalayan Languages Symposium. 16-18 July 2014. Singapore (Singapore)

14 鈴木 博之、藏語方言學研究的基礎問題：以木雅熱崗地區為例、中国社会科学院民族与人類学研究所招待講演、2014年6月3日、北京(中国)

15 鈴木 博之、藏語地理語言學研究的幾個論題：以康巴藏區東部為例、2014年5月29日、南開大学招待講演、天津(中国) 1506

16 Hiroyuki Suzuki. Something different from the pitch: evidences against the monogenesis of the suprasegmentals from the Eastern Tibetic languages. 3rd Workshop on Sino-Tibetan Languages of Sichuan. 3-5 September 2013. 2-4 September 2013. Paris (France)

17 Hiroyuki Suzuki. Overview of the dialects spoken in rGyalthang from the historical perspective. 13th Seminar of the International Association for Tibetan Studies. 21-27 July 2013. Ulaanbaatar (Mongolia)

18 Hiroyuki Suzuki. The words for 'rain' and 'wind' in Tibetic languages spoken in the Ethnic Corridor. 1st Annual Meeting of the Asian Geolinguistic Circle of Japan. 14 June 2013. Tokyo (Japan)

〔図書〕(計1件)

1 鈴木 博之、四川民族出版社、東方藏区諸語言研究、2015、総419ページ

〔その他〕
なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

鈴木 博之 (SUZUKI, Hiroyuki)

国立民族学博物館・先端人類科学研究部・
外来研究員

研究者番号：10593006